第２回トラック輸送における取引環境・労働時間改善岡山県地方協議会《議事概要》

平成 27 年 12 月 15 日（火）13：30～15：20
岡山県トラック総合研修会館　202 研修室

１．開会
２．出席者紹介（委員名簿及び出席者名簿による紹介）
　・中国運輸局長　小川晴基に交替
　・万代委員欠席

３．開会の挨拶　《中国運輸局：山根自動車交通部長》
〇トラック事業者が長時間労働改善のために、まずは事業者自らが意識をして取り組むということが肝要ですが、荷待ち時間の短縮など事業者自らの努力では改善できない部分については、荷主企業の皆様方のご理解とご協力が不可欠です。
〇トラック運転者の働き方を変えていかなければ、日本の経済を支えるトラック輸送が将来的に滞ることになりかねないことからも、荷主とトラック事業者そして行政機関等連携のもと長時間労働の抑制と取引環境の改善を実現していくため、今年 8 月に協議会を設置しました。これからの 4 年間で具体的な成果を出せるようにしっかりと取り組んで参りたい。
〇政府は本年 6 月にデフレ脱却に向けた動きを確実なものにし、将来に向けた発展の礎を再構築する日本再興戦略改訂版 2015 を閣議決定し、その中でトラック産業をはじめとするサービス産業の 5 分野について、官民合同で活性化、生産性の向上を図ることが明記されたところです。トラック産業分野の生産性向上協議会につきましては第 2 回トラック輸送における取引環境・労働時間改善中央協議会と合同で開催され、トラック産業の適性化と併せて生産性向上についても中央協議会において議論していくことになった。
〇本日の協議会では、中央で開催された生産性向上協議会の報告や長時間労働の実態調査の進捗状況、来年実施を予定しておりますパイロット事業に向けての推進事例の紹介などが議題となっています。各委員の皆様からご意見等を賜り改善に向けての足掛かりになればと思いますので忌憚のないご意見をお願い申し上げます。

４．議題
（１）「第 2 回中央協議会の概要報告について」
〈会議資料により説明（岡山運輸支局)〉　～略～
（２）「荷主及びトラック事業者の取り組紹介」
〈会議資料により説明（岡山運輸支局)〉　～略～
（３）トラック輸送状況の実態調査について
〈会議資料により説明（岡山県トラック協会)〉　～略～

（４）厚生労働省の助成事業等について
〈会議資料により説明（岡山労働局)〉　～略～
（５）その他
〈人材確保を取材した映像「トラガール」の視聴及び補足説明（岡山運輸支局）～略～

【意見交換】
（林田委員）
○労働時間短縮は非常に難しい課題だと思っています。私どもの会社ではある程度の車両数で輸送を行っていますが、時間短縮を行いますと車両の稼働が少なくなる、お客様の荷物が運べなくなることもあろうかと思います。その辺が大きな問題で、今までの輸送量が運べなくなる、処理出来なくなるということは当社だけでは無くて全国的なトラック業界の問題として輸送の確保が困難になるのではないかと思います。
○適正運賃収受や手待ち時間の問題について、今までの我々業界の事業のやり方も変えていかなくてはいけないと思います。
たちまちには労働力不足もあり、社員には全業種平均並の給与をしっかりと払っていかなければいけない、そのためにも運賃を確保していきたい。しかし、荷主と運送業者の力関係もあるのでなかなか難しい点もあります。
○冒頭の話のように、これから徐々に輸送力も減って行くことから十分な輸送が出来なくなることが予測される。そういう意味からも運賃を適正に収受し、いろいろな改善をして輸送力を確保することをしたい。人口減少状態ですから、労働力の確保が出来るかどうか問題もありますが、先ほどのＶＴＲのような給食の輸送配車時間が好条件のところはそう多くはありませんので、ある程度の残業は必要になってくる。そのために女性が参入してくるのが難しいという面もありますが、これも運賃の話に繋がり、適正な運賃をいただければシフトを組み替えて、短時間労働が可能になるなど、いろいろな面で適正運賃収受は不可欠になり、運賃を上げるためにも我々も努力をしなければと思います。

（有利座長）
○先ほどから好事例の話を聞いてきましたが、好事例の中には良いことしか書かれていません。しかし、実は沢山の問題事例もあると思います。その問題となったことも一緒に書いて頂ければと思っています。今のお話にあったように荷物によっては上手くいかない場合もある。パイロット事業では、上手くいかなかったこともしっかりと書いていくべきだろうと感じました。

（小郷委員）
○最近感じたことですが、お客様は運賃を抑えるため入札をされる。競争すれば最安値が入るからでしょう。その中で問題になりそうなことについてお話したいと思います。
トラック事業者はハンドル時間・拘束時間があり、限度として輸送距離を測れば岡山から

神奈川県くらいかなと思います。そういう制約された時間などがあるわけですが、先般ある業者から入札をするとの連絡があり、その業者の担当者がそのハンドル時間というものをどのように考えているのか質問状を出しましたが返事がありませんでした。
会社のトップは労働時間等よく理解されておりますが、担当のポジションでは自分の仕事が中心となってしまい流れが把握出来ていません。もう少しお客様のサイドで物流は時代が変わりつつあるということのご理解を少し前に進めていただきたいと思います。
理解の無さから、我々にすると 30 年前の運賃が続き、今まで頑張ってきました。けれども今の環境を変えていくには運賃しかありませんので、ご理解を頂き改定頂かないとますます人が集まらない業界になる。また労働時間を短縮しないと他の業種と太刀打ちできない状態にあり、我々だけでは難しく、運賃を上げることが改善に繋がると思います。

（生藤委員）
〇労働組合としても労働時間短縮は大いにやっていただきたいが、トラックの賃金は労働時間が長いということである一定程度の水準を確保している。つまり時間当たりの単価が非常に低いというのが運送業界です。時間短縮と一緒にドライバーの収入が下がれば、より一層他産業との格差が拡がるので時間短縮は大いに結構ですが、如何に生産性、運賃をあげていくのか。貸切バスは運賃の見直しが行われ、バス事業としては業績が改善しておりその改善をした原資を基にドライバーの労働条件も改善してくれていますので、今ではバス事業は求人をすれば人が集まってくる状態になっている。時間短縮をする手段を考えながら時間単価をあげる方策も考えなければならない。
〇今回のようなアンケートは初めて行ったということで評価出来ますが、期間が限られています。トラック事業は繁閑がありますので、例えば忙しいから難しいかもしれませんが年末などの繁忙期でドライバーアンケートを行っていただければ、もう少し手待ちの実態などが判明し、如何にして改善するのか手法なども見て取れるようになるのではと思っていますから、もう少し工夫してアンケートを実施していただきたいという意見です。

（事務局　岡山県トラック協会）
〇アンケート調査については全国統一にて一斉で行いましたので、「繁忙期が入っていない」といったご意見は他の方からもいただいております。
実際、繁忙期には相当待ち時間が長くなり朝早く着いても夕方にならないと積込みや納品が出来ないなどの意見もあり、そのあたりの実態調査も行うべきとの意見を数社から頂いており、全日本トラック協会へも意見を出しておりますので、今後、国土交通省などとも話をする機会があると思います。

（事務局　岡山運輸支局）
〇今後、パイロット事業を実施するうえでも調査を行うことは一つの方法と思っておりますが、予算的なものなど裏付けがございませんので今の段階では未定になります。

（小野委員）
○ドライバーに対するアンケート調査結果の内容を知りたい。

（事務局　岡山県トラック協会）
○ドライバーアンケートの集計結果については、中央でまとめられ現在は集計分析中で、まだ集計結果が出ておりません。来年 1 月か 2 月に中央で協議会がございますので、そこで発表されます。全国と岡山県単独の回答が集計される予定です。

（小野委員）
○今は業者サイドの話が主になっているので、労働者の本当の実態というものが出た方がより説得力があるのではという気がします。業者サイドで行うとどうしても発注側と受手側になり利害が相反してしまいます。労働者がいないと荷物が運べないわけですから一番弱い立場にある人の声を前面に出していった方が訴える力が大分違うのではと思います。
荷主の方にとって運賃値上げは苦しいかもわかりませんが、そこは協力関係でやらないと全て競争入札でやって上手く回っていくかというと難しい時代が来ていると思っています。
○人手不足はこの業界だけではなく、ものすごく深刻な問題でどこも厳しい状況です。
女性の活用も他業種と比較して全然比率が違いますね、運輸業界は一桁の下の方ですから女性の活用は十分可能性があるのではと思いました。

（有利座長）
○現在の仕組み、長い間積み重ねた商慣行を変えるということは大変かと思いますが、仕組みをどこかで変えていく必要があるかもしれません。

（山下委員）
○先ほど学校給食の話がありましたけども、私どもも行っていますが給食の場合、非常に難しいのが､年間 180 日しか稼働日はありませんが年間通して正社員を抱える必要がある。
また、午前中に配送を終わらせなくてはいけないなど効率の悪い仕事になっている。
そして､学校が休みの日には､その労働力をどうするのか扱い方が難しい問題があります。
先ほど給食は良いというお話でしたが我々としては苦慮している事業です。
○運賃の問題ですが、荷主側の立場でお話しますと如何に効率良く行うのか、積込みや荷下ろし時間の短縮など色々な改善提案を物流側から荷主側へ頂きたいと思っています。

（有利座長）
○提案はどういう形で出していただければよいのでしょうか。この協議会の場でしょうか、このパイロット事業の中でしょうか。

（山下委員）
○両方ともあればと思います。

（辻委員）
〇私どものところは繁忙期には 200 台近い大型トラックが必要になりますので、トラック不足は非常に深刻な問題になっています。
運賃の話ですが、非常に厳しい競争の中、私たちも気持ちにはありますがなかなか難しいところも正直ございます。そういった中で我々として何が出来るのかを考え、多くの企業で実施されていらっしゃるかもわかりませんが、私どもではドライバーさんへのアンケートを行っておりまして、どのような不満があるのか或いは改善して欲しいことなどを年に 1 回は必ず聞くようにしています。それを年 2 回ほど安全大会ということを行っていますので、ドライバーさんにお越し頂いて荷主側としての発信をしているところです。私たちのところではアルコールを扱っていますので、飲酒事故は絶対にあってはならないことですからドライバーさんへの安全指導を行わせていただきながら、アンケートだけを行うのではなく直接お話もお聞きしています。
〇或いは個別の事業者さんだけでは行き届かないようなフォークリフトの運転練習など、運賃では賄えない部分について安全に運転を行えるような事などの取組を充実させながら運送事業者さんと良好な関係を維持させる考え方で行っています。
〇運賃の部分については私ども一企業では正直なかなか難しいものがあります。私たちも配送先での大きな遅れなどドライバーさんからお話を伺ってすぐ対応するなどの仕組みがあるわけですが、そういった声を上げて頂きながら一緒に改善していく、そういう流れがもう少し出来ればもっと全体の改善がされていくのではと思っています。

（有利座長）
〇お互いに提案をしながら少しでも前に進めていき、そういう中で生産性をあげて労働条件も上げていくということになるのでしょう。
〇今後のパイロット事業をどういう仕掛けで進めていくのか、どのような取組をしていくのか考えていかなくてならない。

（赤木）
〇県内のトラック事業者による死亡事故が大変多くなっている。昨年の死亡者数は 10 名でしたが、今年は 11 月までに既に 16 名と激増している。特に 10 月以降多く発生している。今月 10 日には各団体へ指導文書を発出しているところですが、長時間労働もある程度影響しているのではないかと懸念しています。
〇運賃収受の問題や手待ち時間の問題など取引環境の整備が急務ではないかと思っていますが、これから検討しなければならないパイロット事業について皆様から色々なご提案をいただいて良い事業が出来たらと思っています。また、岡山県らしい事業が出来れば一番と思っています。岡山は果物の産地でもありますし物流の拠点は岡山です。中国地方でも岡山に集中していますから物流拠点を活かした事業が出来ないかとも思っております。

（有利座長）
〇皆さんで知恵を絞ってやっていきたいと思いますのでよろしくお願いします。

５．閉会の挨拶《岡山労働局　佐々木労働基準部長》
〇本日は第 2 回協議会大変ありがとうございました。それぞれの立場で色々と問題があることや問題意識をお持ちになっているということがよくわかりました。今年度は協議会を立ち上げ短期的には利害対立しますし難しいと思いますが、こういう形で色々意見を出していただいて、お互いにコミュニケーションをとって業界を改善していくという一つのきっかけになると思います。
〇感想ですが、運賃にしても最終的には消費者が負担することになり、荷主としても価格に繋がっていく。また、翌日配達、無料配達、宅配便の不在再配達であるとか社会的な構造を変える、国民意識を変えるために訴えかけるようなこともしないと閉じられた業界の中だけでは限界もあるのではと思います。今、介護労働の問題が社会問題化されていますが、それぐらい関心を持っていただければ業界の改善も進みやすいのかなと思います。
本日は皆様どうもありがとうございました。

以　上